

03

第3章 クレジット・ローン

- 借りることの利便性とコストを知る

本講での学習のゴール（講義後に学生は以下の事項ができるようになっている）

- クレジットやローンなどの債務の仕組みについて把握できている
- クレジットやローン利用のコストについて知っている
- クレジットやローン利用の留意点について理解している
- 奨学金の活用についての利便と卒業後の返済計画を把握できている
- 購買に必要な多様な決済手段について理解している

学習の狙い

大学生になると、クレジットカード所持者も増え、海外旅行などその利用範囲も広がる。クレジットカードの利用などの購入履歴は、その人がそれだけの購買能力を持っていることの証であり、アメリカではその人の信用履歴に結びつくものとされる。ここでは、貯蓄や消費者信用の利用も含め、自分自身の信用履歴を高めるためにはどうしたらよいかわかるようになる。

この章の概要

金銭を貯蓄する場合、またはローンやクレジットで借入する場合の金利について知り、具体的な金利計算を行う。そして将来、信用履歴を高めるためにどのようなことが必要かについて理解する。

[Case 3-1]

あなたが、10万円を一年間貯蓄する場合、郵便局、銀行など機関によって、金利の差はあるだろうか？一方で10万円を一年間借入する場合、教育ローン、住宅ローン、消費者ローン、クレジット・リボ払いなどによってどれ位の金利がつくのだろうか？

[Case 3-2]

海外旅行に行き、クレジットカードを利用して買物をした。しかし銀行口座からの引き落とし予定日を間違えてしまい、残高が足らず、引き落としができなかった。来月残高があれば自動的に引き落としされるのだろうか？信用履歴というものがあるというのだが、この記録も残ってしまうのだろうか？良い信用履歴を築くことは住宅ローンなどでより高額な融資を受けることができるという側面もある。あなたがよりよい信用履歴を築くためにはどのようにしたら良いのだろうか。

キー概念

- 貸金業法（利息制限法と出資法）
- 信用情報
- 信用履歴
- 時間価値
- 利子
- 多様な決済手段

キー概念解説

貸金業法（および利息制限法と出資法）： これまで、ほとんどの消費者金融やクレジットカード会社のキャッシング金利は、利息制限法違反の高金利に設定されていた。平成 18 年 12 月に成立、施行された利息制限法改正では、元本 10 万円未満は年 20%、元本 10 万円以上 100 万円未満は 18%、元本 100 万円以上は年 15%を制限金利と定め、制限金利を超える部分は法律上支払わなくてよいとされ、また、同時に出資法改正では、貸金業者の上限金利を年 20%と定め、それを超えると 5 年以下の懲役もしくは 1,000 万円以下の罰金またはこれらが重ねて科せられる。また、法改正により、借りすぎ、貸し過ぎを防止するため、借入残高が年収の三分之一を超える場合新たな借り入れができない総量規制が導入された。

信用情報： 信用情報には、個人の属性情報（氏名、生年月日、自宅住所、自宅電話番号、）と、クレジットカードや割賦販売、及び各種ローン（住宅、自動車、教育など）の利用残高と返済履歴が登録されている。大手 3 社（「日本信用情報機構」、「シー・アイ・シー（CIC）」、「全国銀行個人信用情報センター」）により管理され、クレジットカードの取得の可否、ローンの審査をはじめ様々な審査に用いられている。

信用情報の開示を求めることもできる。CIC のサイトでは、信用情報開示報告書の見方も解説している。 <http://www.cic.co.jp/mydata/report/documents/kaijimikata.pdf>

信用情報開示の方法等、詳しくは各機関の HP を参照のこと。

- ・ 日本信用情報機構 <http://www.jicc.co.jp/>
- ・ シー・アイ・シー（CIC） <http://www.cic.co.jp/>
- ・ 全国銀行個人信用情報センター <http://www.zenginkyo.or.jp/pcic/>

信用履歴（Credit History）： クレジットカードの支払履歴であり、アメリカではクレジットヒストリーによって計算されるクレジットスコアがクレジットの利用に大きな影響を持つ。クレジットスコアは、クレジットヒストリーを元に計算、偏差値にしたものであり、個人の信用力を格付けしたものである。これらは、大手 3 社の情報信用会社により管理され、クレジットカードの取得の可否、ローンの審査をはじめ様々な審査に用いられている。

時間価値 (Time Value) : 将来に値上がりするかもしれないという期待に対する価値。期間経過に伴う利子率やインフレ率により発生する。

利子 : お金の貸借に対してある一定利率で支払われる対価。利息と利子は同じ意味で用いられることが多いが、借りた場合に支払うものを利子、貸した場合に受け取るものを利息と使い分けることがある。また、一般の銀行では利息と呼び、ゆうちょ銀行では利子と呼ぶ。

多様な決済手段 : 決済とは、取引が行われた後、実際のお金の引き渡しが行われることをいう。決済手段には、大きく分けると、後払い、即時払い、前払いの種類がある。クレジットカードによる支払いは、後払いでのタイプである。カード会社によって与信枠が定められているため、カード会社が加盟店に対して先に代金を支払い、後日消費者が代金をカード会社に対し後払いすることになる。一方、デビットカードは即時払いの支払手段である。デビットカードには、**J-Debit** や国際ブランドデビットカード（(暗証番号、またはサイン取引)）があり、加盟店での利用の都度そのまま口座から引き落としされるもので、原則として口座残高の範囲内での利用が可能という特徴がある。前払いの決済手段であるプリペイドカードは、事前に入金した（カードにチャージした）額内で利用するというものである。電子決済手段は、現金の持ち歩きによるリスクや小銭の煩雑さを回避でき、利用記録を確認できるので、支出管理ということにも役立つ。近年、電子決済手段は多様化するとともに利用が増加している。

[Work 3-1]

次のようにクレジットカードを用いて買い物をした。何か月で完済できるだろうか。またそれまで毎月の支払額はいくらになるだろう。

4月 パソコン 10万円 6回に分割

5月 洋服 3万円 4回に分割

6月 旅行 5万円 3回に分割

分割払い（手数料＝実質年率 15%、月利 1.25%）

支払回数表

支払回数	3	4	5	6	10	12
支払期間	3か月	4か月	5か月	6か月	10か月	12か月
分割手数料率 (%)	2.51	3.15	3.78	4.42	7.00	8.31

ワークシート(空欄を埋めなさい)

パソコン 手数料=100,000円×4.42%=4,420円 ①

(4月) 毎月返済額 104,420÷6=17,403.3

5月の返済額 17,405円(6月以降17,403円)

洋服 手数料=30,000円×3.15%=945円 ②

(5月) 毎月返済額 30,945÷4=7,736.3

6月の返済額 7,737円(7月以降7,736円)+17,403円 =25,140円

旅行 手数料=50,000円×2.51%=1,255円 ③

(6月) 毎月返済額 51,225÷3=17,805

7月の返済額 17,805円+7,736円+17,403円 =42,224円

3つの手数料の合計は 円 ①+②+③

毎月の支払は、

5月 ④

6月 ⑤

7月 ⑤

8月 ⑦

9月 ⑧

10月 ⑨ 完済

[Work 3-2]

大学を卒業し、新居に引っ越し、冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機、エアコン、テレビ合わせて、36万円の買い物をした。クレジットカードを利用した分割払いで、年利15%(月利1.25%)で購入した。毎月元金2万円の返済をすると完済するのに何カ月かかるだろう。また、毎月元金3万円の返済だと完済するのに何カ月かかるだろう。グループ内で、毎月返済額を変えて、計算し比較してみよう。

提出期限 月 日

[Work 3-3]

クレジットやサラ金で返済期日までに借入金を返済できなかった場合、遅延損害金を支払うことが義務付けられている。借金が10万円未満の場合、10万円以上100万円以上の場合、100万円以上の場合、何倍の遅延金を支払わなくてはならないだろうか。また、その支払いができないとき、自己破産という手段をとることがあるが、それはどのような制度だろうか？また、そのほかに、返済を回避する方法はあるだろうか？

Student ID:

名前:

提出期限

月 日

[Homework 3-1]

日本学生支援機構の奨学金を借入した場合の返済金額を調べてみよう。

(4年間=48 か月の場合)

第一種奨学金 月額 45,000 の場合

月額 64,000 の場合

但し、機関保証制度は利用しないものとする。また入学時特別増額は受けないものとする。

参照 <http://simulation.sas.jasso.go.jp/simulation/index.action>

[Homework 3-2]

誰でも、クレジットカードなどのクレジットやキャッシングを利用しすぎると、返済しきれないほどの借金が累積し、やがて多重債務者になり得ると言われる。多重債務者とはどのような状態を指すのか、また、そうならないためにどうすればよいか家族と話してみよう。